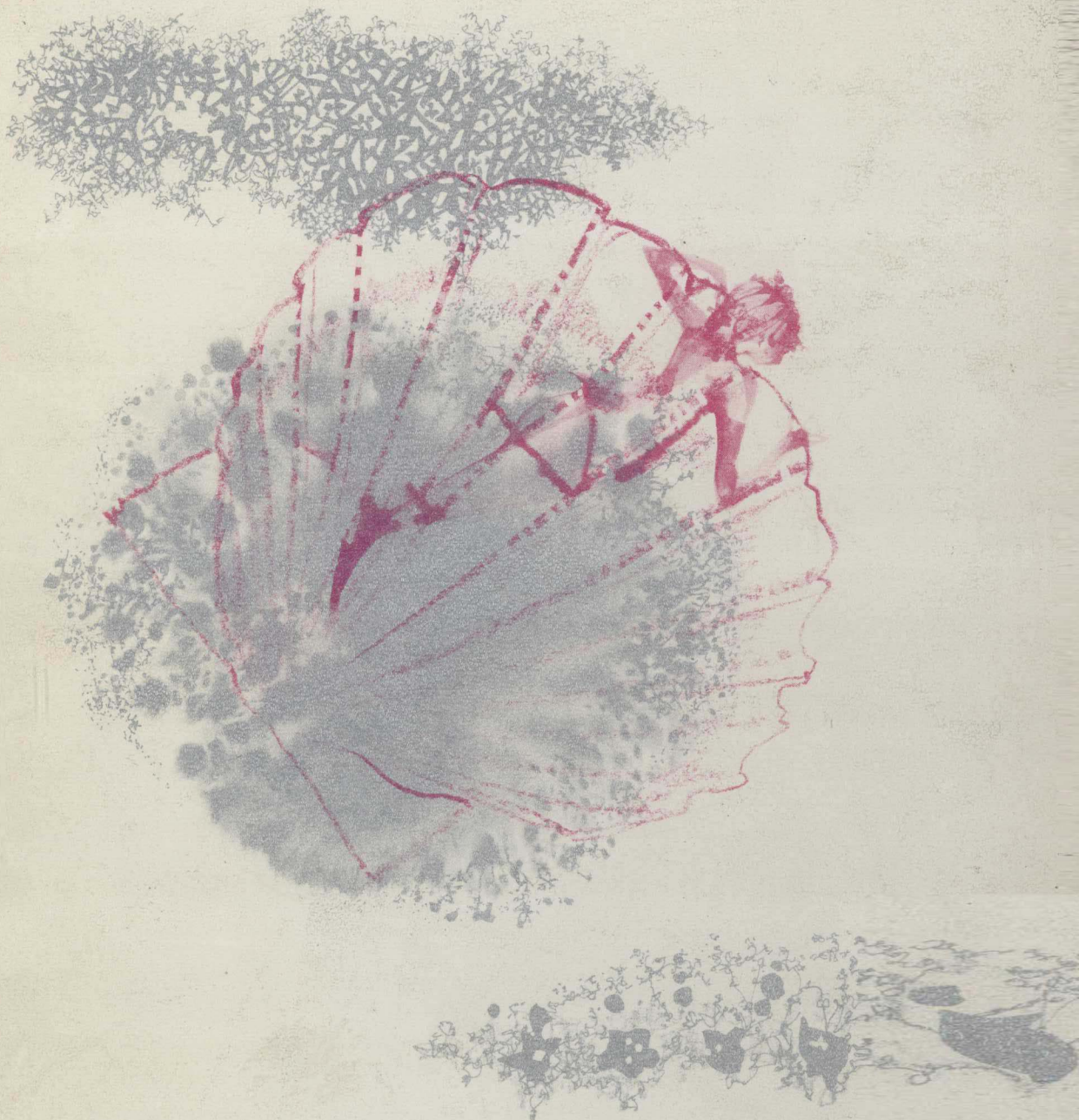


詩集

こころのうた

詩 八木重吉 他
装画 初山 滋





〈詩集〉
こころのうた

昭和42年10月25日初版発行
昭和44年5月20日5版発行

定価 450円

著・八木重吉他

装画・初山 滋

発行所・株式会社 童 心 社

東京都新宿区四谷2の9

電話(351) 0486・6470

振替 東京 75504

レイアウト・辻村益朗

写真植字・東京光画株式会社

製版・印刷・小宮山印刷株式会社

製本・松栄堂製本所

B 5 変形・21cm・96P・NDC 149. 7

いころのうた

八木重吉 他詩

初山 滋 装画



大寺の香のけむりはほそくとも、
空にのぼりて、あまぐもとなる、
あまぐもとなる。

獅子舞歌



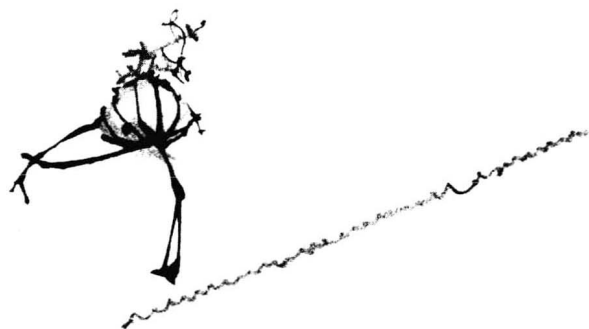
太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。

三好達治



もくじ

雪〈扉〉	三好達治	3
静かな炤	八木重吉	8
心よ		10
暗い心		11
ぼくぼくひとりで		12
ぼくぼく ぼくぼく		13
花		14
人形		14
母		15
みにくいものは		16
うつくしいものは		16
いつになったら		17
風景	山村暮鳥	18
雲		20
雲		21
野良道		22
野良道		23
こども		24
こども		25



燕の歌	立原道造	26
傷ついで、小さい獣のように		28
眼りの誘い		30
虹とひとと		32
おとめの顔	大手拓次	34
わらいのひらめき		35
みずいろの風よ		36
荅から荅へあるいてゆく人		38
未完成の詩一つ	室生犀星	40
茶の花		42
街にて		44
はる		45
信濃		46
大阿蘇	三好達治	48
既に鷗は		50
春の岬		51
黒い風琴	萩原朔太郎	52
竹		54
竹		55

汚れっちまった悲しみに……………	中原中也……………	56
月夜の浜辺……………		58
骨……………		60
——に……………	高村光太郎……………	62
レモン哀歌……………		66
案内……………		68
永訣の朝……………	宮沢賢治……………	70
河童と蛙……………	草野心平……………	74
ぐりまの死……………		77
雁……………	千家元麿……………	78
喪のある景色……………	山之口獏……………	80
蹄鉄屋の歌……………	小熊秀雄……………	82
初山さんのこと……………	堀尾青史……………	86
解説……………	堀尾青史……………	88



いろいろのうた

静かな炤

八木重吉

ひとつの木に

ひとつの影

木は

しずかな
ほのお



心よ

ほのかにも いろづいてゆく ころ

われながら あいらしいころよ

ながれ ゆくものよ

さあ それならば ゆくがいい

「役立たぬもの」にあくがれて はてしなく

まばろしを 追うて かぎりなく

ころときめいて かけりゆけよ



暗い心

ものを考えると

くらいところに

夢のようなものがとぼり

花のようなものがとぼり

かんがえのすえは輝いてしまう

○



ぼくぼくひとりですいていた
わたしのまりを

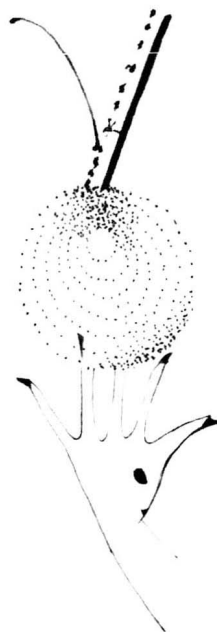
ひよいと

あなたになげたくなるように

ひよいと

あなたがかえしてくれるように

そんなふうになんでもいったらなあ



花がさいたようにみえてくる

むすびめが ほぐされて

ぼくぼく

ぼくぼく

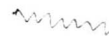
にがい にがい いままでのことが

まりを ついていと

ぼくぼく

ぼくぼく

○



花

おとなしくして居ると

花花が咲くのねって 桃子がいう

人形

ねころんでいたらば

うまのりになつていた桃子が

そつとせなかへ人形をのせていつてしまった

うたをうたいながらあつちへいつてしまった

そのささやかな人形のおもみがうれしくて

はらばいになつたまま

胸をふくらませてみたりつぼめたりしていた

母

お母さま

わたしは 時とすると

お母さまがたいへん小さいひとのようにおもえてきて

このでのひらのうえへいただいて

あなたを拝んでいるようなきがしてくるがあります

こんなあかるい日なぞ

わたしの心は美しくなってます

お母さんをこの胸へかざり

いばってやりたいようなきがします